広島の西の玄関口に 曲線美が川面に映える 旭（あさひ）橋

戦後に再開された太田川改修放水路工事に伴って、旧山手川に架けられていた旭橋（旧旭橋）は橋長 67.3 mのため、約 4.0 mの拡上（こうじょう）と 212.7 mの継ぎ足しの必要性に迫られました。

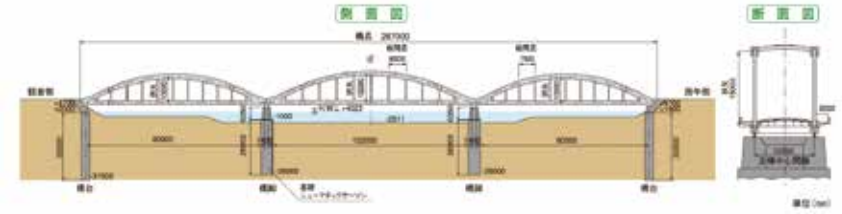
あわせて、一般国道 2 号は高度成長期のなかで車両の大型化や高速化に向けて全国的な国道整備のうねりが押し寄せていたころでした。交通量の増加で最大のネックとなっていた旭橋も例外でなく、全面的にその幅員、ルートが検討されることになりました。こうしたことから旧旭橋の下流 500 m地点に国道 2 号もルートが決定され、旭橋も昭和 29 年（1954）1 月に工事に着工、昭和 35 年 3 月に完成しました。

旭橋は建設当時アーチタイプの鋼ローゼ桁道路橋として世界一の径間長を誇る橋でした。昭和 29 年当時の設計、製作法としては、非常に新しい構想であるユニオンメルト自動溶接を長大部材に使用するなど、橋梁製作技術の最先端をいくものでした。

完成から半世紀、旭橋は接続する西広島バイパスと一体となって広島西部地域の発展に大きく寄与し、現在も隣に建設された「新旭橋」とともに広島を東西に貫く幹線の一部としての役割を果たしながら、その優美なアーチの姿を太田川放水路の川面に映し出しています。

なお旭橋の名の由来は、旭橋が朝日の昇る東側でなく旧市内の西側にあることから、己斐の旭山神社に由来したものと思われています。この旭山神社は、かつて毛利元就が朝日が昇るときに陶晴賢との厳島合戦の出陣式を行ったとされています。

旭橋



■位置図

概　要

上部工
橋梁形式：鋼ローゼ桁
規　　格：1 等橋
設計荷重：T － 20、L － 20
橋　　長：287.00 m　　有効幅員：17.50 m
下部工
橋台基礎：ニューマチックケーソン
躯　　体：鉄筋コンクリート重力式

工事中の太田川放水路に架かる旭橋（昭和 35）

新旭橋の高架建設中